

日本のために、世界のために

入善町立入善西中学校 3年 本田 遥紀

みなさんはカンボジアという国を知っていますか。カンボジアはインドシナ半島の中心にある人口約1140万人の気候が温暖な国です。僕はそのカンボジアに昨年十二月に行つてある一つの驚くべき体験をしました。

僕があるカンボジアの有名なショップで買い物をしていた時の話です。お土産のバックを買い店員さんからおつりを返されました。そのおつりをよく見ると、なんと日本の国旗と大きな橋が描かれていたのです。なぜ日本の国旗がカンボジアのお金に描いてあるのか。大きな橋と日本はどんな関係があるのか。気になった僕は日本に帰国した後、調べてみる事にしました。お金に描いてあった橋は、「つばさ橋」と呼ばれ、日本が資金提供して2015年に架けられた橋です。この橋のおかげで今まで7時間かかっていた道をわずか5分で移動できるようになり、生産効率がとても上がったそうです。また、今まで日本は四回カンボジアに橋を架けていて、橋を架けるための資金は日本の税金によって賄われています。日本はODAという発展途上国への開発援助に税金を使っています。日本が発展途上国への支援をするメリットはないのではないかと思うかもしれませんが、支援をして支援した国の経済が発展していけば日本製の電化製品や車を買ってくれるかもしれません。支援をすることは結果的に日本の経済にも影響を与えることにつながるのです。

また日本は戦後まもなくして日本を復興させるための資金や力を外国の国から援助してもらい日本のインフラを整備したという過去があり、国際社会に対する恩返しをしたいという想いで他の国への援助を行っています。

このような理由から日本の税金はカンボジアの国道の整備や首都のプノンペン水道のインフラを先進国と変わらないぐらいまで整備したり、日本にカンボジアの留学生を受け入れ行政・公共政策・経済・法律などの分野で学びカンボジアに学んだ知識や技術を持ち帰るための人材育成奨学計画などの事業を立ち上げカンボジアの発展のために使われています。

僕はこのお金に描かれている絵は日本とカンボジアの友好の証であるということと、その関係を支えているのは税金であるということを知りました。僕の今までの税金に対するイメージはとても多くのお金を払わないといけないという大きな負担のようなものでしたが、調べていく内に生活を幸せにしたり、国と国が仲良くして互いに発展していくための原動力となるものだと思ふようになりました。

カンボジアの人々の笑顔を作った税金について深く学び、使い方を国民全員で考えていくことが今の国際社会に生きる僕達のすべきことだと僕はこの体験を通して学びました。